

第4課 「霊の結ぶ実は平和」

日曜日 神との平和 (ロマ5:1)

平和というのは何かの状態を表すこともあるでしょうが、根本的には関係を表します。私という存在はどこで確かなものにされているのかということです。その確かさはガイドに書かれているように「私たちは、以前は神と敵対していましたが、イエスは十字架の死によって、この敵対関係を終わらせ・・・神の友となることを可能にしてくださいました」という「達成された事実」にこそあります。そしてこの確かさゆえに、この平和は「成長する」というのです。ではどのように・・・。ガイドは「その度合いに比例して・・・生きる力を神から受けます」「御国に生きることの恵みと祝福をさらに経験するようになり」と説明しています。これは具体的にはどういうことなのでしょう。

“敵を愛すること、それが平和である。敵を愛して欲しい”。北海道遠軽で少年教護院「家庭学校」の校長をしていただいた谷昌恒(たにまさつね)さんの言葉です。彼はこの言葉を生徒に訴えるのです。“その敵とは誰か、あなたの父であり、母であるし、そしてあなた自身でもある。あなたの運命でもある。今までは憎んできた。こんな親でなかったら、と親や自分の運命を呪ってきた。どうかその敵を愛して欲しい。その敵を愛することが出来る、というところに本当のあなたがあり、敵を愛せないならあなたという存在はないのだから”。本当に厳しい言葉ですが、平和が成長していくとは、このことなのだと思います。ガイドの説明とも合致します。

神との平和、これは戦いでもあるわけです。神との平和が私たちに戦いの力を与えてくれるのです。敵を愛するための力を。その戦いの中で戦う力が与えられるそのような平和、それがここで約束されている平和です。

月曜日 平和を得る (その1—— マタ11:28, 29)

平安に満ちた人生、それは生き方そのものが根本的に変えられていく事です。そして、ガイドは日々負う重荷の負い方を今日の御言葉から説明します。私たちは生きている間重荷と取組み続けねばなりません。信仰を持って、病気が癒されない事もあります。家庭環境の苦しみから信仰を持った後も、同じ重荷を負い続けねばならないかも知れないのです。しかし、その重荷はもはや私たちを押しつぶすことはなくなりました。それは、主イエスが私と一緒にその重荷を負って下さるからです。若い牛が初めてくびきを背負う時、農夫はくびきの片方を、くびきに慣れた牛に背負わせます。くびきに慣れた牛が、初めてくびきを負う牛をリードし、若い牛が徐々にくびきに慣れていくためです。くびきに慣れた牛は、主イエスの姿そのものです。私たちが背負う重荷の全てを背負われたお方です。この主イエスが私の負うべきくびきの片方を負って下さるのです。まだその重荷に慣れない私の横にピッタリ寄り添って・・・。だから次の言葉に味わいが出るのです。「ただ黙々として従うことに完全な休みがある」(ガイド)。

火曜日 平和を得る (その2—— ヨハ14:27)

マタイ8:23~27の教訓。突然の嵐に驚いた弟子たちはもう一つ驚きがありました。それは「イエス様が眠っておられた」こと。こんな状況でどうして！初めはイエス様を起こさなかった。自分を頼みに出来たから。しかし、やがてどうしようもなくなりすがりつきます。その時のイエス様の言葉に注目です。「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちよ」(マタイ8:26)。弟子たちの度を越した恐れ(パニック状態)への叱責です。弟子たちの恐れは、彼らの信仰を全部呑みこんでしまうような恐れだったからです。イエス様はこれに対して嘆かれたのです。イエス様が一緒、イエス様と一緒になら、度が過ぎた恐れなどというものは、起こり得ないはずだったからです。

水曜日 家庭における平和 (ヘブ12:14)

愛の七つの峠 第一の峠は幻の峠 結婚してから3年ほどの間に越える峠道。さまざまな困難に直面しながらも泣いたり、笑ったり、夢幻の中を耐えながら越えて行く涙の峠。第二の峠は妥協の峠 結婚後3~5年の間、互いの中に表われる。相手の欠点をあえて見ないように努めつつ危険な倦怠期を手汗握りながら越える峠。第三の峠は戦いの峠 結婚後5~10年間、夫婦として暮らし真に相手を知る頃である。互いに自分の気持ちと戦いながら相手を受け入れようと努めるけれど、戸惑いを感じつつ越える非夢の峠。第四の峠は決断の峠 結婚後10~15年を経た頃に越える峠である。相手の長所短所を現実を受け止めて足並みを合わせるよう心がけるも、空回りする峠。第五の峠は孤立の峠 結婚後15年~20年頃に立ち上がる峠である。病や悩みという荷物を抱えるが、精神的にはあたかも独り身であるかのような孤独さえ感じる時である。各々が、将来に対する展望を少しずつ諦めながら乗り越えて行く峠。第六の峠は一致の峠 今までの出来事すべてを受け入れ合い、相手を享受する心と責任感を持って伴侶のために残された人生を捧げながら越える下り道にさしかかった峠。第七の峠は自由の峠 結婚後、長い年月を経て表われるゴール間近の峠である。言葉を交わさなくても互いが分かりあえる。

木曜日 教会の平和 (マタ5:23, 24)

私共は、信仰があっても困難や問題を抱える時が多々あります。神の子の特徴とされるマタイ5:9「平和を願うこと」と「平和をつくり出すこと」との間には距離があるのです。しかし「真の平和は霊の結ぶ実として心の中で成長していくものです。ですから、真の平和は私たちがどこにいても共にあります」(副読本33頁)との言葉に励まされるのです。詩人八木重吉の言葉を思います。「人と人との間を美しくみよう。私と人との間を美しくみよう。疲れてはならない」